

令和7年
春 号

4月1日発行

三重県神社庁 「季節たより」



ご先祖さまに感謝

「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉がありますが、四月に入りましてからは春らしい陽気となつて参りました。皆様健やかにお過ごしでしょうか。

この彼岸は、季節の変わり目を表す言葉でもあり、先祖をお祀りする大切な行事でもあります。もともと仏教の世界では、人間が生きていくこの世のことを「此岸しがん」、対してこれを超越した悟りの世界を

「彼岸」と表しましたが、こうした考え方が日本古来の祖先崇拜や農耕儀礼と結びついて、今日のお彼岸行事が形成されていったとされています。春分・秋分の日を中心とした「彼岸」ですが、太陽が真東から登り真西に沈むこの時期が、祖先との交流にふさわしいとも考えられてきたようです。

さて、私たちは先祖、先人のたゆみない御労苦によつて、今日の平和な日々を享受しておりますが、ちようど本年は、大東亜戦争終結より八十年の節目の年を迎えています。欧米列強による植民地支配をはじめ、現代では想像もできない世界情勢の中、先人たちは我が国の主権や未来、そして家族を守るために戦いました。私たちはこの国の礎となり散華された英霊の御心に応えるべく、この国を守り継いでいかなければいけません。

東京の靖國神社や各県の護國神社では尊い命を捧げられた英霊をお祀りし日々平和を祈念しています。これを機会に改めて私たちの祖先に対して思いを馳せ、感謝と慰霊の誠を捧げましょう。

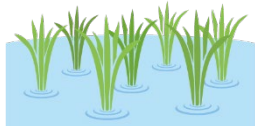
氏神社について

氏神社とは、居住する地域をお守り下さる神さまをお祀りする神社の事を言います。お祀りされている神さまは神社によってさまざまで、氏神さまは子供の誕生から成長、地域の平安、日々の生活などを見守りくださる存在として、崇敬されています。また、氏神社周辺地域に居住する人を氏子と言います。



御霊の行方

人が亡くなったとき、故人の御霊はどこに行くのでしょうか。古くから日本人は、故人の御霊はいつでも私たちのそばにあり、愛しい人や子孫とともに生き、その幸せを見守ってくれと信じてきました。こうした伝統的な考え方は今日まで様々な形で伝えられています。自分の家や田畑に山の神様をお招きする行事が各地で見られますが、これは山の神様となった祖先の霊が、恵をもたらすために山から里に降りてくるという信仰があるからです。



昭和の日 四月二十九日

昭和天皇がお生まれになられた日で、昭和の御代では二十年まで「天長節」、その後「天皇誕生日」として、ご誕生をお祝いする祝日でした。平成の御代に改まった際、昭和天皇が自然を愛するお人柄であったことから「みどりの日」に制定されましたが、「昭和天皇誕生日」という本来の意味が伝わりにくいという多くの国民の要望を受け、平成十七年の祝日法改正により「昭和の日」となりました。今年からは昭和元年から数えると二〇〇年目を迎えます。昭和は東京オリンピックの開催や戦後からの復興など様々な出来事がありました。昭和天皇の御事績に思いを馳せつつ、昭和の御代を振り返ってみては如何でしょうか。



神社からのお願い

参拝者の中にはご高齢のかたや基礎疾患をお持ちのかたもいらっしゃるかと思いますので、引き続き職員がマスクを着用している神社もあります。ご理解下さいますようお願い致します。また、清々しい気持ちで神社にお参りして戴くために、皆様におかれましてもご協力いただきませうようお願い申し上げます。



神社や神道について詳しくはこちらのQRコードからご覧ください。



三重県神社庁
ホームページ



神社本庁
ホームページ



三重県神社庁
Instagram



三重県神社庁
YouTube

三重県内各神社では、家内安全・商売繁盛・初宮参り・七五三詣・学業成就・合格祈願・交通安全・縁結祈願・子授祈願・安産祈願・厄祓い・病氣平癒・地鎮祭・竣工祭・自動車清祓など様々なご祈願を受付けています。

いつもより神さまに近い場所で、願意を届けてみてはいかがでしょうか。
ご祈願についてのお問合せは、三重県内の各神社までお願い致します。